

令和元年度 学校アクションプラン 年度末評価

重点項目	1. 教科指導	
重点課題	家庭学習の定着と学習時間の向上を目指す。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・平日、休日ともに家庭学習時間が少ない。 ・家庭での学習習慣が身についていない生徒や部活動との両立に苦慮している生徒など個々の学習環境が多様である。 ・目標を持っていない生徒は、学習意欲が乏しく学習時間が少ない。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の時間を+30分（1日当たり）実践した生徒の割合・・・70%以上。 ・家庭での1日の学習時間が30分未満の生徒の割合・・・15%以上。 	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間を「現状に+30分」という目標を、生徒と教員の共通目標として定着を図る。 ・各教科における生徒への宿題ならびに課題提供の現状把握を行うとともに、家庭学習の定着に向けての課題と方策を考えていく。 	
達成度	「学習時間調査」の結果として、学期を追うごとに学習時間が増加していた。特に考查中の学習に対する意識が高く、全学年において家庭での学習時間をしっかり確保していた。しかし、全体として学習時間の大幅な増加は見られなかった。	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学習時間の目標設定を定め、振り返りができるようにした。さらに、担任が評価をし、生徒にフィードバックできるようにした。 ・集会などで学習時間調査を実施する意義や「+30分」の学習を意識・実践するよう呼びかけた。 ・教師からの具体的な目標に対する働きかけや宿題や課題を提供してもらうよう呼びかけた。 	
評 価	C	学習時間調査を基にした教員の働きかけによって、学習に向けた意識に変化がみられることがわかった。
次年度へ向けての課題	全校で取り組んできた「漢字力向上チャレンジ」に代わるものとして、新たに「学習に向かう生徒を育てる」という観点で、全校または各コース・各学年・各教科で取り組む内容や目標設定を検討していきたい。	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	2. 宗教教育	
重点課題	「学園の心」の具現化に努める。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・慈光堂を、本校における「特別な場所」「中心となる場所」として、教員・生徒ともに認識していることが、礼拝の態度から感じることができる。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・慈光堂では、教員・生徒ともに、人の話に耳を傾ける時間・心を落ち着かせる時間であることを、共通認識とする。 ・合掌する姿を美しくする(beaty of form＝様式美)。 ・慈光堂に響きわたる歌声を出す。 	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの教員に講話の機会を持ってもらい、宗門校の教員であるという意識を高める。 ・「報恩の日」に生徒(3年生)が話す機会を設けることで、生徒自身が同世代の思いや考えを知り、己の日常に刺激を与えるきっかけとする。 ・行事は特別な時間であることを生徒に意識させるため、移動時(入堂前)から静かにする、正装(ブレザー着用)で臨む、念珠を持参する等、担任が教室での指導を徹底する。 	
達成度	宗門校らしく、厳かな雰囲気の中で宗教行事に取り組むことができた。	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「報恩の日」には3年生が講話を担当し、全校生徒に「他人に100パーセント(完璧)を求めない」「『誰かを頼ること』『自分が頭を下げること』は大切で、それはその人の成長にも繋がる」と訴え、生徒も傾聴していた。 ・朝の礼拝で、多様な視点からの講話を心がけた。また、パワーポイントを用いる等、勤行担当者および講話担当者が、飽きがないよう工夫を凝らした。 	

評価	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、多くの教員が報恩の日の礼拝・学年礼拝・クラス礼拝での講話の準備を徹底し、生徒の琴線に触れる話をした。 各行事において、担任が入堂前指導を徹底していた。
次年度へ向けての課題		<ul style="list-style-type: none"> 今後も慈光堂での雰囲気づくりを大切にしていきたい。 報恩の日の、生徒による講話を継続する。 非常勤の先生や、事務員の方々にも、クラス礼拝もしくは学年礼拝の講師を依頼する。 毎朝の礼拝・学年礼拝・クラス礼拝・報恩講等の行事が、生徒が「言われてみれば確かにそうだな」と気付ける、よいきっかけとなる場としたい。

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	3. 進路指導	
重点課題	新しい入試制度に対する準備を行い、生徒の学力や意欲の向上を目指す。	
現状	<ul style="list-style-type: none"> 大学への進学が、推薦入試が中心であり、一般入試での受験者が限られている。 プロジェクトSや土曜講習の参加者の取り組みは向上しているが、内容的な深まりが必要である。 就職者の内定率は向上しているが、企業への定着率には問題がある。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 大学の合格者70名以上を目標に、一般入試での合格者を増やす。 就職希望者の全員合格と、9月受験の内定者を85%以上になるようにする。 	
方策	<ul style="list-style-type: none"> 「学びの基礎診断」等のツールを利用し、進路指導の充実に努める。 「ジュニア・インターンシップ」「企業見学」「応募前見学」等の指導を通じ、職業観や社会観の育成に努める。 	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> 大学進学者79名（四大 53名 短大 26名）となり、目標値には到達したものの、四年制国公立大学進学者が0であった。 就職希望者のうち学校・職安からの紹介を希望する生徒は全員内定した。第1期で出願した生徒の内定率は88%であった。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> 学校を上げて面接、小論文の指導を行った。結果として推薦入試ではほぼ満足のいく結果を得ることができた。 センター試験受験者および一般入試受験者に対し、進路指導室での自学自習を行った。 就職の応募前見学はほとんどの企業で実施ができ、生徒の内定に貢献できた。 	
評価	C	年度計画をほぼ順当に実施できた。進学・就職の状況もおおむね良好である。ただし、国公立大学の合格がなかったこと、推薦委員会後の進路変更等など今後の課題である。
次年度へ向けての課題	進路決定プロセスについて、生徒・保護者との面談を積み重ねて着実に成案を得よう努力したい。特に突然の進路変更や時期を逸した応募をできるだけ避けたい。また、一般入試に対応できる学力の形成方法を考えていきたい	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	4. 生徒指導	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> いじめを許さない学校づくり、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。 挨拶、富山県No. 1を目指す！更に、全国No. 1を目指す！ 	
現状	<ul style="list-style-type: none"> 学年主任、学年指導部との連携を密に行い、いじめにつながる問題行動の早期対応に努めている。 しっかり挨拶ができる生徒と、できない生徒との差が出てきた。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> いじめはあるものとして早期発見・早期対応に努め、「いじめゼロ」を目指す。 挨拶「県1位」「全国1位」 	
方策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の声に耳を傾け、小さなことも見逃さない。各学年と協力し、学年集会などを通して規律ある学校生活を送れるよう指導する。 立ち止まって挨拶と目と目を合わせて、しっかり挨拶できるよう指導する。 	
達成度	いじめゼロとはいかなかった。生徒指導協議会や研修会で説明のあった「いじめゼロはありえない」という観点でこれからも指導を継続していきたい。挨拶ができる生徒が少しずつ減ってきた。挨拶『県下一』を達成できるようにしたい。	

具体的な取り組み状況	いじめについて、学園生活調査を元に生徒の声に早期対応した。全職員にも呼びかけ、目と目を合わせて挨拶ができるようにと、立ち止まって挨拶指導をお願いした。	
評価	B	これからは、いじめは起こり得るものだと思います、早期発見・早期対応に努めていきたい。全職員、全生徒で県下の挨拶を目指す。
次年度へ向けての課題	いじめにつながる行為をさせないように引き続き指導を行う。SNSでの誹謗中傷によるいじめに対しても強化していきたい。挨拶は引き続き『県下』を目指す。	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	5. 特別活動	
重点課題	集団活動（ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事）や部活動、奉仕活動を通して、自主性・責任感・協調性・奉仕の心・思いやりの心などの人間性を育成する。	
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・真面目な生徒が多く、学校行事にも素直に取り組んでいる。 ・積極性をさらに引き出せるよう、学校行事やホームルーム活動で一人ひとりに役割を与え、学校全体を活気づけていく必要がある。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事において、一人ひとりが役割を担い、主体的に考え、行動する集団を築きあげる。 ・各委員会活動を充実させ、生徒会活動を活性化する。 	
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・代議員会や文化祭実行委員会などを頻繁に開催し、ホームルームに持ち帰っての話し合いを持つことにより、集団活動への意識を高める。 ・校紀・美化・福祉の各委員会を年間5回以上行い、各クラスの委員が積極的にクラスで呼びかけたり働きかけたりすることにより、ホームルーム活動を活性化する。 	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会や文化祭において、生徒一人ひとりが役割を担い楽しく行事に取り組めた。生徒会執行部もリーダーシップを発揮し、さまざまな仕事を積極的に行った。 ・校紀委員会による「挨拶運動」では、事前の意識づけをする必要があった。 ・美化委員会で校内の美化について話し合うことで、意識を高めることができた。 ・エコキャップ回収運動を、同じ学園の幼稚園に加えて、本願寺富山別院でも実施した。SDGsの取り組みとして一歩前進した。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・[生徒会執行部] 文化祭では、主体的に企画をして準備を進めた ・[校紀委員会] 毎月12・13日を「挨拶の日」と決め、挨拶運動を実施した。 ・[美化委員会] 「美化宣言」「美化スローガン」、「文化祭用ポスター」などを作り、全校生徒に呼びかけた。 ・[福祉委員会] 福祉用具体験講座に参加した。また、ベルマークの仕分け、タオル・ぞうきん1本運動を実施した。 ・「富山マラソン」や「フライングディスク（障害者スポーツ）」、福祉施設の「納涼祭」などにボランティアとして参加した。 ・SDGsの取り組みの1つである「エコキャップ回収運動」を本願寺富山別院でも実施した。 	
評価	B	どの行事においても、生徒が率先して行動し、生き生きと活動していた。執行部も委員会も活躍する場を多くもち、役割を果たすことができた。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・校紀委員会では、「挨拶」を全校生徒に徹底させていく。 ・美化委員会は、美化対策を各クラスで働きかけていく。 ・福祉委員会では、クラスで回収運動を推進していく。 ・執行部や各委員が全校生徒・クラスの生徒に発信していく、主体的に取り組む生徒会を目指す。 	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	6. 環境と健康指導	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・整った環境で学習や活動に取り組むため、環境美化についての意識向上を図り、実践力につなげる。 ・「自分の健康は自分が守る」という意識を持ち、健康の保持増進に努める態度を身につけさせる。 	
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下や階段等で綿埃が見受けられる。 ・健康診断における要受診者の受診率が低い。 	

達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自らゴミや綿埃を拾って捨てる姿が日常化する学校を目指す。 ・健康診断後の受診率の目標値を、各クラス30%以上、学年及び全校では40%以上。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自らゴミや綿埃を拾って捨てるという姿を生徒に見せ、ゴミなどを拾っている生徒を見かけたら声掛けをする。 ・環境美化が損なわれた時点で、集会や校内放送で全校に呼びかける。 ・年間を通して花がある環境に努める。 ・健康診断後、定期的に受診状況を配布し、受診勧奨の一助とする。 ・「ほげんだより」により健康に関する情報を提供し、健康意識の向上に努める。 ・外部講師による保健講座を実施する。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・校内で綿埃やごみを見かけることが少なくなった。しかし、清掃終了時の点検が不十分などところがある。 ・健康診断後の受診率は34.9%(3/24 現在)で昨年度末の36.1%を超えることはできなかった。 ・2学期に実施した「保健防災講座」は、講師から提供される情報や話術により、生徒たちに「命を守るということ」についての関心を持たせることができた。
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が率先して清掃やごみ拾いをする姿を見せることで、生徒の意識喚起を行った。 ・健康診断後の受診率向上のために、カード未返却の生徒に対してはカードの再発行を行い、1・2学期末の保護者懇談の折に担任から保護者に対し受診勧奨した。 ・外部講師招聘の「保健防災講座」は、初めて防災教育の視点を含めた講座となった。
評 価	C 美化活動及び受診率の向上の両面において目標達成のために努力はしているが、結果に結びついたとは言い難い。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・美化活動においては、自分から進んで学校をきれいにしようとする態度の育成と「古いからきれいにならない、仕方がない」ではなく、「古いのにきれいになっている」を目指した意識の変容を図るための方策を探る。 ・「自分のからだ(命)は自分で守る」という意識と実践する態度を喚起するための方策を探る。 ・新型コロナウイルス感染症の流行が継続することを念頭に置き、感染防止のための方策を徹底する。

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった